

2018年度（2019年3月期） 第2四半期 決算説明会

2018年 10月30日
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

年号：断りが無い限り、会計年度を示す

- 2018年度 第2四半期決算
通期業績予想
事業戦略の進捗

- 2018年度 第2四半期決算詳細
通期業績 セグメント別予想
主要経営指標

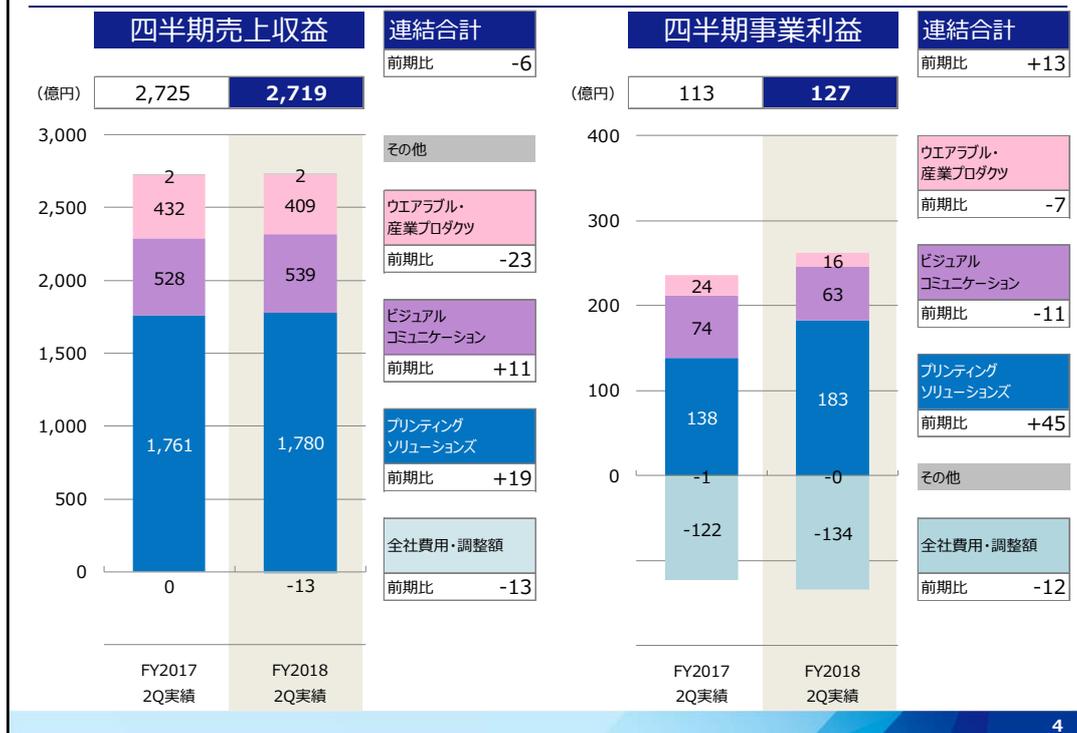
2018年度 第2四半期実績 | ハイライト

	2017年度		2018年度		前年同期比		
	(億円)	2Q実績	%	2Q実績	%	増減額	増減率
売上収益		2,725		2,719		-6	-0.2%
事業利益		113	4.2%	127	4.7%	+13	+12.2%
営業利益		90	3.3%	121	4.5%	+31	+34.6%
税引前利益		85	3.1%	125	4.6%	+40	+46.9%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		47	1.8%	90	3.3%	+42	+89.1%
EPS* (円)		13.58		25.67			
為替レート	USD	111.00		111.46			
(円)	EUR	130.36		129.66			
* EPS: 基本的1株当たり当期利益							
		前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
		売上収益		+3	-2	-42	-40
		事業利益		-1	-1	-25	-27

3

- 2018年度 第2四半期実績は、ご覧の通りです。
- 売上収益は、前年同期比 6億円 減収の 2,719億円、
事業利益は、13億円 増益の 127億円、
四半期利益は、42億円 増益の 90億円となりました。
- 当四半期の為替変動による影響額は、
売上収益で 40億円 のマイナス、
事業利益で 27億円 のマイナスとなりました。

2018年度 第2四半期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、当第2四半期におけるセグメント別での売上収益、事業利益の前年同期比較です。
- プリンティングソリューションズが、大容量インクタンクモデルの販売増加に加え、インクカートリッジモデル本体生産に関わる費用の減少により、増益となった一方で、ビジュアルコミュニケーション、ウェアラブル・産業プロダクツが減益となりました。
- また、7月27日に開示した通期業績予想の前提となる社内計画に対しては、中南米における経済活動の停滞などの、外部環境変化の影響を受けたことなどにより、売上収益は、為替影響により計画を上回ったものの、事業利益は若干の未達となりました。
- なお、社内計画に対する為替影響は、売上収益はプラス影響、事業利益は軽微なマイナス影響となりました。
- 各セグメントの詳細は、後ほどご説明します。

2018年度 第2四半期累計 | ハイライト



	2017年度		2018年度		前年同期比		
	(億円)	2Q累計実績	%	2Q累計実績	%	増減額	増減率
売上収益		5,273		5,323		+50	+1.0%
事業利益		281	5.3%	274	5.1%	-7	-2.6%
営業利益		236	4.5%	256	4.8%	+19	+8.1%
税引前利益		230	4.4%	269	5.1%	+38	+16.9%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		149	2.8%	202	3.8%	+52	+34.8%
EPS* (円)		42.55		57.38			
為替レート	USD	111.04		110.26			
(円)	EUR	126.24		129.88			
* EPS: 基本的1株当たり当期利益							
		前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
		売上収益		-11	+23	-47	-35
		事業利益		+3	+14	-29	-11

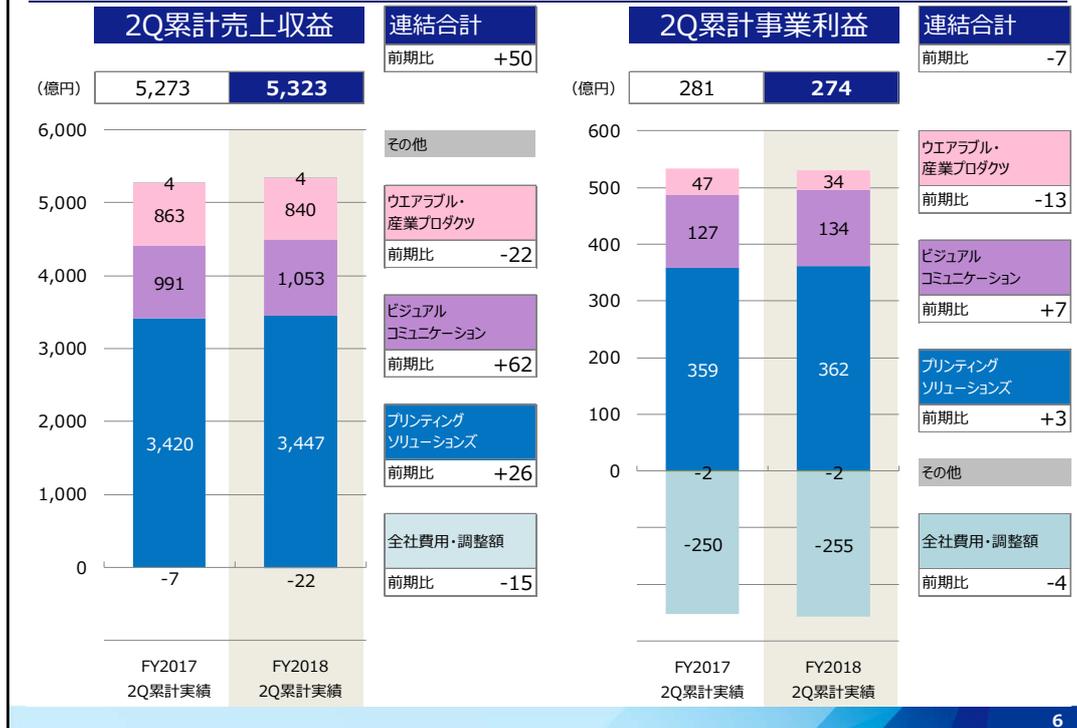
5

➤ 2018年度 第2四半期 連結累計期間の実績は、ご覧の通りです。

➤ 売上収益は、前年同期比 50億円 増収の 5,323億円、
事業利益は、7億円 減益の 274億円、
四半期利益は、52億円 増益の 202億円 となりました。

➤ 当連結累計期間の為替変動による影響額は、
売上収益で 35億円 のマイナス、
事業利益で 11億円 のマイナスとなりました。

2018年度 第2四半期累計 | 事業セグメント別



- こちらは、第2四半期 連結累計期間における、セグメント別の売上収益、事業利益の前年同期 との比較になります。
- ご覧のとおり、上期の累計では、売上収益は、大容量インクタンクモデルやプロジェクターの販売増加もあり、増収となったものの、事業利益は、将来成長に向けた戦略的費用の投入を進めたことに加え、為替のマイナス影響もあり、若干の減益となりました。

2018年度 通期業績予想 | ハイライト

EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2017年度		2018年度				増減額		
	(億円)	実績	%	7/27予想	%	10/30予想	%	前期比	7/27予想比
売上収益		11,021		10,500		10,900		-121 -1.1%	+400 +3.8%
事業利益		747	6.8%	800	7.6%	800	7.3%	+52 +7.0%	- -
営業利益		650	5.9%	750	7.1%	770	7.1%	+119 +18.5%	+20 +2.7%
税引前利益		626	5.7%	740	7.0%	760	7.0%	+133 +21.3%	+20 +2.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益		418	3.8%	580	5.5%	600	5.5%	+181 +43.4%	+20 +3.4%
EPS* ¹ (円)		118.78		164.67		170.34			
為替レート	USD	110.85		102.00		110.00			
	(円)	EUR	129.66		126.00		128.00		
		第3四半期以降の 為替前提(円)	USD	EUR	為替感応度* ²	USD	EUR	其他通貨合計	
			110.00	127.00	売上収益	△30	△15	△30	
					事業利益	+5	△10	△13	

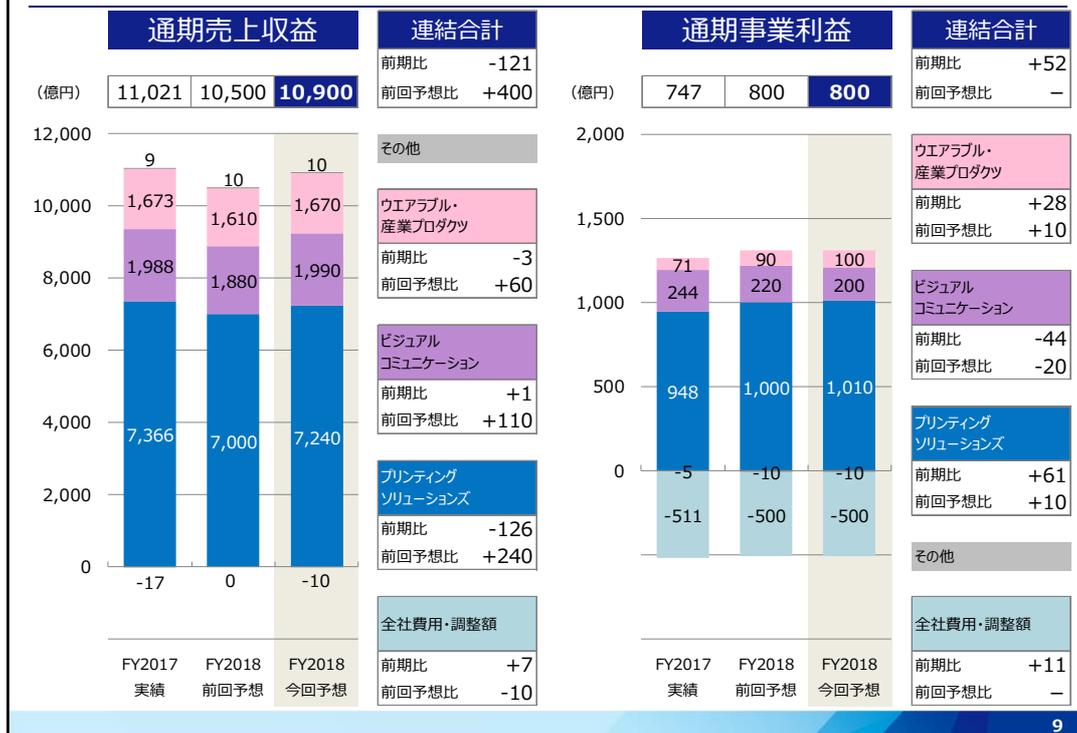
*1 EPS：基本的1株当たり当期利益 *2 USD/EURは1円の円高による年間影響額（億円）、其他通貨は1%の円高による年間影響額（億円）

- 続いて、2018年度通期予想をご説明します。
- 2018年度通期の業績予想は、
売上収益は 1兆 900億円、
事業利益は 800億円、
当期利益は 600億円 となります。
- 第2四半期は、社内計画に対して若干の未達となり、
通期業績予想に対する外部環境変化の影響を、事業ごとに一定程度見込むものの、
全体に与える影響は限定的であり、大容量インクタンクモデルの先進国での拡大や、
商業・産業分野向け大判プリンターなどの戦略は、着実に進展しています。
- 外部環境変化に対応した施策を展開し、利益回収期間である下期に臨み、
通期業績予想の達成を目指します。
- なお、今回の業績予想では、第3四半期以降の為替前提を
USDは110円、ユーロは127円とし、
其他通貨は、足元のレートからやや円高水準に見直しました。
- その結果、前回予想に対する為替影響は、売上収益は約400億円のプラス影響、
事業利益は若干のマイナス影響を見込んでいます。
- また、前年度に対しては、売上収益で約230億円、事業利益で約110億円の
マイナス影響を受けることとなります。
- 以上により、通期業績予想は、前回予想から、売上収益は400億円の上方修正、
事業利益は据え置きとします。
- なお、営業利益以下には、一部所有資産の売却を織り込みました。

- 外部環境の変化に対応
 - 中南米通貨の下落・経済活動の停滞
 - ✓ 販売状況を踏まえた柔軟な価格調整
 - 北海道胆振地震からの復旧
 - ✓ プロジェクター販売影響の極小化に最優先で対応
 - 米中貿易摩擦を契機とした、中国・台湾におけるロボット需要減退
 - ✓ 他地域の需要の確実な取り込み、新製品の発売
 - ✓ 中期的な成長を見据えた、用途別ソリューションの開発
- 将来成長に向けた戦略的な費用投入と効率的な執行
- プリンターのビジネスモデル変革を加速
 - 大容量インクタンクモデルのラインアップ拡充
 - エマージング地域に加え、先進国での訴求・販売強化
 - インクカートリッジモデルは、低価格モデルの絞り込みと価格維持施策の継続

- 通期業績予想達成に向けたポイントについて、ご説明します。
- 最初に、外部環境の変化への対応です。
- 今上期は、中南米の一部で、通貨の下落や経済活動の停滞が顕在化しましたが、販売状況に応じて、今後も価格を柔軟に調整することにより、利益の最大化を図ります。
- 9月に発生した北海道胆振地震により、千歳事業所において、プロジェクター用小型液晶ディスプレイの生産が一時的に停止しましたが、販売影響を最小限にとどめるため、最優先で対応を進めます。
- また、米中貿易摩擦を契機に、中国・台湾におけるロボット需要が急速に減退しました。しかしながら、他地域での需要は拡大していますので、これらの取り込みに加え、新製品の発売を確実に実施するほか、中期的な成長を見据え、用途別ソリューションの開発を進めます。
- 費用執行については、将来成長に向けた戦略的な費用投入は継続しますが、足元の状況を踏まえ、費用発生を最小限にとどめるようにコントロールしていきます。
- 一方で、インクカートリッジモデルから大容量インクタンクモデルへの転換という、エプソンの目指しているインクジェットプリンターのビジネスモデル変革は、より積極的に進めていきます。
- 大容量インクタンクモデルは、レーザープリンターだけでなく、インクカートリッジモデルと比べても、環境負荷が低く、さらに、印刷コストが一桁違うという価値は、全く新しいビジネス価値を生み出す可能性があるかと、確信しています。
- 大容量インクタンクモデルは、ラインアップを拡充し、エマージング地域に加え、先進国での訴求や販売を強化することにより、拡大をさらに加速させていきます。一方で、インクカートリッジモデル本体は、低価格モデルの絞り込みと価格維持施策を継続していきます。

2018年度 通期業績予想 | 事業セグメント別



- こちらは、売上収益、事業利益のセグメント別の内訳です。
- 各セグメントで為替前提の変更による影響を見込んだほか、先ほどご説明した、外部環境変化への対応施策を反映しました。
- こちらにつきましても、詳細は後ほどご説明します。

- 戦略製品・分野の開拓が着実に進展
 - 大容量インクタンクモデルの拡大継続
 - 高速ラインインクジェット複合機の販売拡大に向けた取り組み進展
 - 商業・産業分野（サイネージ・テキスタイル・ラベル）の拡大
 - プロジェクターの強化領域での成長
- 販売拡大に備えた、生産基盤の整備が計画通り進捗
 - PrecisionCoreプリントチップ生産拠点竣工
 - 商業・産業分野向け大判プリンターの開発・生産新拠点着工



広島事業所 新工場（9号館）

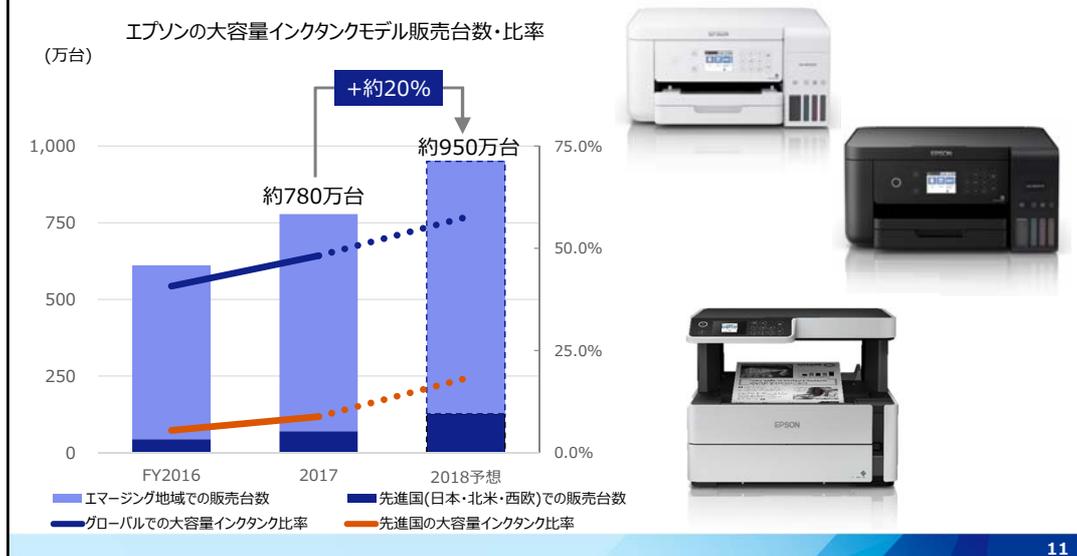


広島事業所 イノベーションセンターB棟（完成予想図）

10

- ここで、第1期中期経営計画の戦略の進捗をご説明します。
- 外部環境の変化はあるものの、戦略製品・戦略分野の開拓は着実に進んでいます。
- プリンター事業は、大容量インクタンクモデルの拡大が継続しています。
- 高速ラインインクジェット複合機は、昨年6月の発売以来、販売体制の整備や製品訴求を進めた結果、印刷性能に加え、低消費電力・消耗品交換頻度の低さという環境性能の高さや、メンテナンス性の高さなどが認められ、今年度に入り、販売も伸びてきています。
- 商業・産業分野では、お客様の多様なニーズに対応した製品やサービスの提供により、成長につなげています。
- プロジェクターでも、順調な成長を果たしています。
- また、これらの販売拡大に備えた生産基盤の整備も、計画通り進捗しています。
- 上期では、プリンターの基幹部品であるPrecisionCoreプリントチップの生産拠点が竣工したほか、商業・産業分野向け大判プリンターの開発・生産拠点の建設が始まりました。
- 大容量インクタンクモデル、商業・産業分野、プロジェクターの進捗については、もう少し詳しくご説明します。

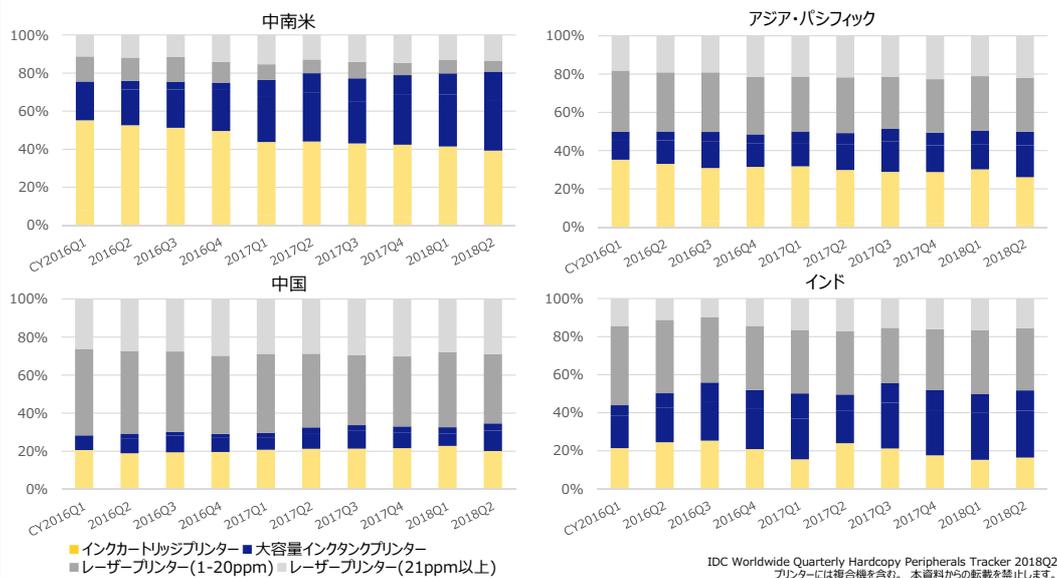
- エマージング地域に加え、先進国でもインクジェットプリンターのビジネスモデル変革を進展
- モノクロモデルなどのラインアップ拡充や本体カラーバリエーションを追加



- 先ずは、大容量インクタンクモデルの販売拡大についてご説明します。
- ご覧の通り、エマージング地域に加え、先進国でもインクジェットプリンターのビジネスモデル変革を進展させています。
- 棒グラフで示しているとおおり、大容量インクタンクモデルは、エマージング地域を中心に順調に拡大してきましたが、今年度は、モノクロモデルなどのラインアップ拡充や、本体のカラーバリエーション追加などにより、先進国でも大きく販売を伸ばし、グローバル全体で950万台の販売を見込んでいます。
- 折れ線グラフは、インクジェットプリンター全体に占める、大容量インクタンクモデルの比率を示しています。
- オレンジの折れ線が先進国での比率ですが、インクカートリッジモデルが中心であった先進国においても、大容量インクタンクモデルのお客様価値の訴求により、プリンターのビジネスモデル変革を加速させていきます。

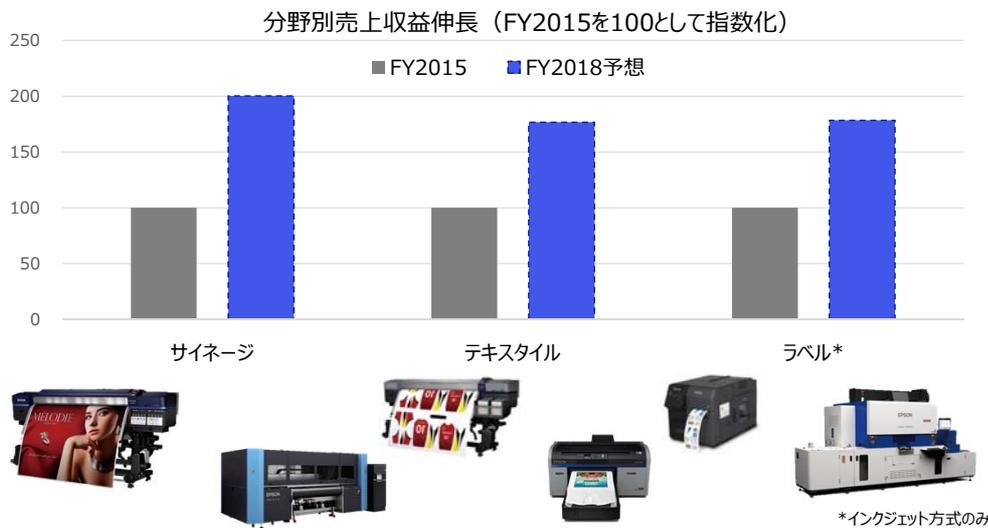
- 中南米に続き、アジア・パシフィックでは大容量インクタンクモデルの比率が上昇
- オフィス需要の獲得と、家庭向け需要開拓を進める

A4サイズプリンタータイプ別市場動向（台数構成比）



- こちらのスライドは、エマージング地域での、プリンターのタイプ別販売台数比率の推移を示したグラフです。
- 上段左が、中南米の市場、上段右がアジア・パシフィックです。
- 下段は、アジア・パシフィックでも大きな市場である、中国とインドの状況です。
- 中南米は、元々インクジェットプリンターの比率が高い地域ですが、大容量インクタンクモデルの比率が上がるとともに、インクカートリッジタイプの比率が下がっているだけでなく、レーザープリンターの比率が下がっています。
- また、レーザープリンターの比率が高いアジア・パシフィックでも、大容量インクタンクモデルの比率が上がり、レーザープリンターの比率が下がり始めています。
- エマージング地域では、オフィスの低速レーザープリンターの領域に大容量インクタンクモデルが受け入れられているとともに低プリントコストが、オフィスや家庭での新たなプリント需要を生み出していると考えています。
- このような需要に応えるため、モノクロモデルなどによるラインアップ拡大や、カラーバリエーションの展開により、さらなる拡大を目指していきます。

- 重点成長分野（サインージ・テキスタイル・ラベル）の拡大
 - 新製品投入と販売強化により、市場のデジタル化のニーズを着実にとらえ、成長を実現



13

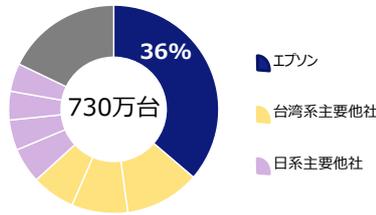
- こちらは、商業・産業分野向けです。
- サインージ・テキスタイル・ラベル分野で、お客様のニーズにマッチした新製品の投入や販売強化により、デジタル化の波を確実にとらえることができます。
- 例えば、サインージ向けでは、過去においては、新規参入であったために、多様なお客様のニーズにお応えできないという時期もありましたが、2015年の新シリーズの投入以来、順調に販売は拡大しています。
- テキスタイル分野でも、スポーツウェアや、昇り旗などのソフトサイン向けに昇華転写プリンターが南米を中心に拡大し、また、Tシャツに直接プリントできるガーメントプリンターは、欧米や日本での販売拡大が続いているほか、生地に直接プリントできる大型のテキスタイル印刷機なども、欧州を中心に販売が増加するなど、拡大につながっています。
- また、ラベル分野も、PrecisionCoreラインヘッドを搭載した小型のカラーラベルプリンターで市場開拓を進めるなど、重点分野での成長につながっています。
- このように、それぞれの分野で、2015年度の2倍近い売上収益を見込めるまでに成長しており、今後もさらに拡大を目指していきます。

■ 強化領域も計画に沿って順調に拡大

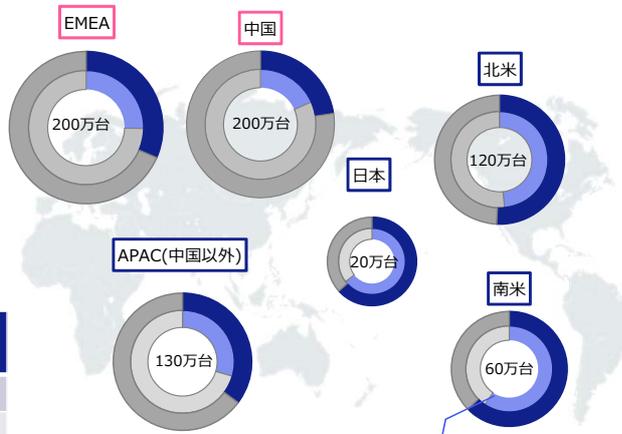
- 高光束分野、中国・EMEA(欧州・中東・アフリカ) 地域



グローバルブランド別台数シェア*1
FY2017 ブランドシェア



地域別エプソン台数シェア*1



分野別ブランドシェア*1 (台数)

商品分野	エプソンシェア FY2015⇒FY2017
高光束*2全体	15%⇒ 23%
内10,000lm以上	10%⇒ 19%
超短焦点・スタンダード・ホーム	33%⇒ 37%

外側：FY2017 エプソンシェア
内側：FY2015 エプソンシェア

*1 データ：Futuresource Consulting Ltd., 500lm以上のプロジェクターについて *2 交換レンズ機能付きプロジェクターを高光束と定義

- 最後が、プロジェクターです。
- 左上の円グラフは、グローバルシェアを示したグラフです。
- ご覧のように、エプソンは36%ものシェアを獲得するに至っています。
- 左下の表の通り、シェアの低かった10,000ルーメン以上においてはレーザー光源搭載の高光束プロジェクターの投入により、シェアを大幅に拡大しています。
- また、右側の円グラフは、それぞれの地域での市場シェアを示しており、円の内側が2015年度、外側が2017年度になります。他の地域と比較してシェアの低かった中国や欧州・中東・アフリカでも、順調にシェアを伸ばすことができました。
- 以上ご説明した通り、戦略は着実に進展していると考えています。
- この下期でEpson 25 第1期中期経営計画は終盤を迎えることとなりますが、引き続き、長期ビジョン「Epson 25」実現に向けて、粘り強く取り組んでまいります。

- 2018年度 第2四半期決算
通期業績予想
事業戦略の進捗

- 2018年度 第2四半期決算詳細
通期業績 セグメント別予想
主要経営指標

2018年度 第2四半期実績 | ハイライト



	2017年度		2018年度		前年同期比		
	(億円)	2Q実績	%	2Q実績	%	増減額	増減率
売上収益		2,725		2,719		-6	-0.2%
事業利益		113	4.2%	127	4.7%	+13	+12.2%
営業利益		90	3.3%	121	4.5%	+31	+34.6%
税引前利益		85	3.1%	125	4.6%	+40	+46.9%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		47	1.8%	90	3.3%	+42	+89.1%
EPS* (円)		13.58		25.67			
為替レート	USD	111.00		111.46			
(円)	EUR	130.36		129.66			
* EPS: 基本的1株当たり当期利益							
		前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
		売上収益		+3	-2	-42	-40
		事業利益		-1	-1	-25	-27

16

- 第2四半期の営業利益、四半期利益についてご説明します。
- 営業利益は、その他の営業収益費用に、千歳事業所の、北海道地震からの復旧に伴う費用を計上した一方で、円安に伴い為替予約時とのレート差異による差損を計上した前期と比較し、当四半期はその影響が無くなったことにより、増益となりました。
- また、税引き前利益は、営業利益の増加に加え、USD高による現預金等の外貨建て資産・負債の換算替えによる為替差益を計上したことなどにより、増益となりました。

プリンティングソリューションズ	2018年度		前年 同期比	(億円)
	2017年度 2Q実績	2018年度 2Q実績		
売上収益	1,761	1,780	+19	
プリンター	1,236	1,236	+0	
構成比 IJP	83%	83%		◆ IJP: ・大容量インクタンクモデルは 全体では堅調 ・インカートリッジモデルは価格 維持施策により販売減少 ・インクは減少
SIDM	8%	8%		◆ SIDM: 前年同期並み
その他	9%	9%		◆ 大判プリンター: ・サイネージ、テキスタイル、 ラベル分野の順調な販売が 継続 ・フォト・グラフィックスは競合他 社の影響により減少
プロフェッショナルプリンティング	482	500	+17	
その他	45	43	-1	
事業間売上収益	-3	-0	+3	
セグメント利益	138	183	+45	◆ POSプリンター: タブレットPOS、および 中国向けの製品で販売増加
セグメント利益率	7.9%	10.3%		

IJP : Inkjet Printers
SIDM : Serial Impact Dot Matrix Printers

17

- プリンティングソリューションズの前年同期との比較は、ご覧のとおりです。
- 当セグメントは増収・増益となりました。
- プリンター事業の売上収益は、前期並みとなりました。
インクジェットプリンターでは、大容量インクタンクモデルは中南米の一部で
経済活動停滞や競合による価格攻勢を受けたものの、
全体ではエマージング地域・先進国ともに販売数量増加となりました。
一方で、インカートリッジモデル本体は、価格維持施策により、低価格モデルを中心に
販売数量減少となりました。また、インク売上は、本体稼働台数減少により減少しました。
- プロフェッショナルプリンティングの売上収益は、増加しました。
大判プリンターでは、ガーメントプリンターの販売が好調なテキスタイル分野をはじめとした
注力分野で順調な販売が継続したほか、POSプリンターは欧米でタブレットPOS対応製品、
および中国向けの製品が増加しました。
- セグメント利益は、戦略的な費用増加に加え、
インクの減収や為替のマイナス影響があったものの、
大容量インクタンクモデルやプロフェッショナルプリンティングの増収影響の他、
ベンダー火災影響により生産に関わる費用発生や、生産遅延に対応した輸送費などが
増加していた前年同期に対して費用が減少したことにより、増益となりました。
- なお、セグメント利益のうち、プリンター事業が占める割合は、3割半ば程度となりました。
- 社内計画に対しての比較は、次の通りです。
- プリンターの売上収益は、大容量インクタンクモデルは中南米の一部を除き堅調に推移
したものの、一方で、インカートリッジモデル本体は、競合の想定以上の価格攻勢に対し、
価格維持施策を堅持し、販売を抑制したことで、事業全体では概ね計画通りとなりました。
- また、事業利益は、インカートリッジモデルの販売抑制による在庫増加に伴い、
一時的に損失を計上したことで未達となりました。
- なお、この損失は、販売・生産の適切なコントロールにより、解消予定です。
- プロフェッショナルプリンティングは、売上収益・事業利益ともに概ね計画通りとなりました。

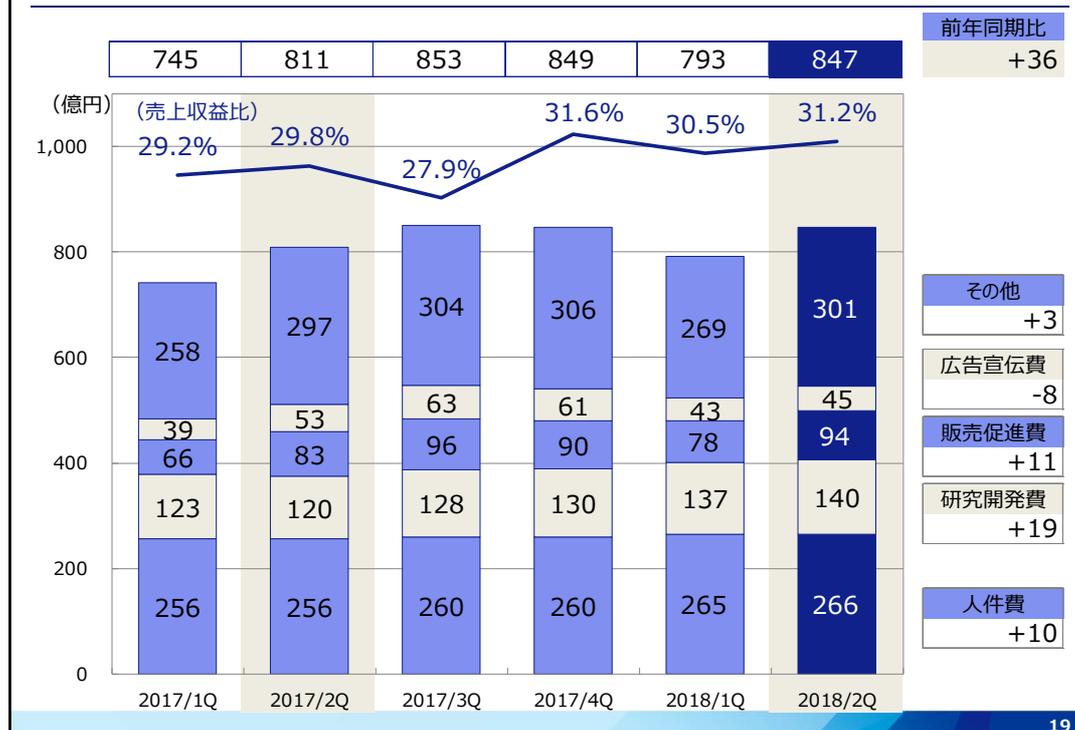
				(億円)	
ビジュアルコミュニケーション	2017年度 2Q実績	2018年度 2Q実績		前年 同期比	
売上収益	528	539		+11	◆ プロジェクター： ・ 高光束モデルの販売増による ミックス改善 ・ 欧州・亜州増加の一方で 米州・日本向けは軟調
セグメント利益	74	63		-11	
セグメント利益率	14.2%	11.7%			

				(億円)	
ウェアラブル・産業プロダクツ	2017年度 2Q実績	2018年度 2Q実績		前年 同期比	
売上収益	432	409		-23	◆ ウォッチ： 海外向けが販売回復に至らず ◆ ロボット： 米中貿易摩擦を契機に中国・ 台湾向けの需要が急速に 減退 ◆ 水晶： 民生向けなどで減少 ◆ 半導体： 引き続き好調に推移
ウェアラブル機器	130	121		-8	
ロボティクスソリューションズ	64	50		-14	
マイクロデバイス他	253	252		-1	
事業間売上収益	-16	-14		+1	
セグメント利益	24	16		-7	
セグメント利益率	5.5%	4.0%			

- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターで、サッカーワールドカップ需要や教育案件獲得などにより、欧州・アジア向けが増加した一方で、米州・日本向けが軟調に推移し、前年同期並みの数量となりましたが、レーザー光源搭載の高光束モデルの販売増加によるモデルミックス改善により、増収となりました。
- セグメント利益は、増収とモデルミックス改善の増益影響がありましたが、将来成長に向けた研究開発費などの増加に加え、為替のマイナス影響もあり、減益となりました。
- 社内計画に対しては、ワールドカップ需要が期待を下回ったこと、欧州での案件の後ろ倒しなどにより売上収益・事業利益とも若干の未達となりました。
- ウェアラブル・産業プロダクツの売上収益は減収となりました。ウェアラブル機器は、ウォッチの海外向け販売が回復せず、減収となりました。ロボティクスソリューションズは、ロボット・ICハンドラーともに、米中貿易摩擦を契機に、中国・台湾向けの需要が急速に減退した影響で、減収となりました。マイクロデバイス他は、水晶で、民生機器向けなどが減少した一方で、半導体が引き続き好調に推移したことで、前年同期並みとなりました。
- セグメント利益は、ロボティクスソリューションズの減収影響を受け、減益となりました。
- 社内計画に対しては、為替のプラス影響を除くと、売上収益は計画どおり、事業利益は若干の未達となりました。

販売費および一般管理費 主要科目別推移

EPSON
EXCEED YOUR VISION

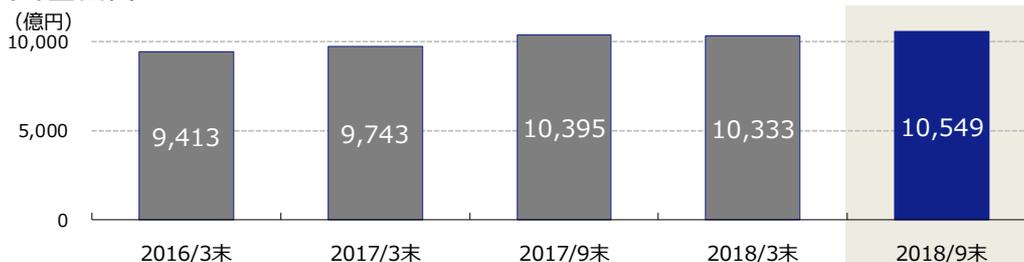


- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧のとおりです。
- 第2四半期は、前年同期から 36億円の増加となりました。
- これは、将来成長に向けた研究開発および、継続的に実施している戦略製品のプロモーション活動の強化や、販売体制の強化などによるものです。

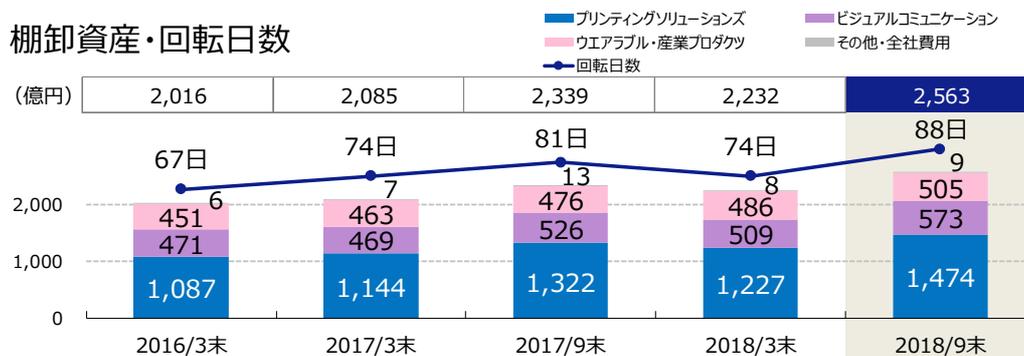


- 第2四半期 事業利益の前年同期比 増益額 13億円の要因分析は、ご覧のとおりです。
- 数量変動は、
大容量インクタンクモデルが大きくプラスに寄与したほか、
小型プリンター、テキスタイル向け大判プリンターや、ラベルプリンターなどの
プラス効果もあり、
インクカートリッジ、フォト・グラフィックス向け大判プリンター、
ウォッチ、ロボット、水晶デバイスなどのマイナスを上回りました。
- 価格変動は、
価格維持施策を強化しているインクジェットプリンター本体に加え、
プロジェクター、ウェアラブル機器、大判プリンターなどでミックス改善が進んだことで、
水晶デバイスなど、一部製品でのマイナスを上回りました。
- コスト変動は、
販売のミックス改善に見合った費用増加がありましたが、
インクジェットプリンター本体生産に関わる費用の減少などによりプラスとなりました。
- 販管費の増加は、先ほどご説明したとおり、
人件費や研究開発費、販売促進費の増加などによるものです。

資産合計

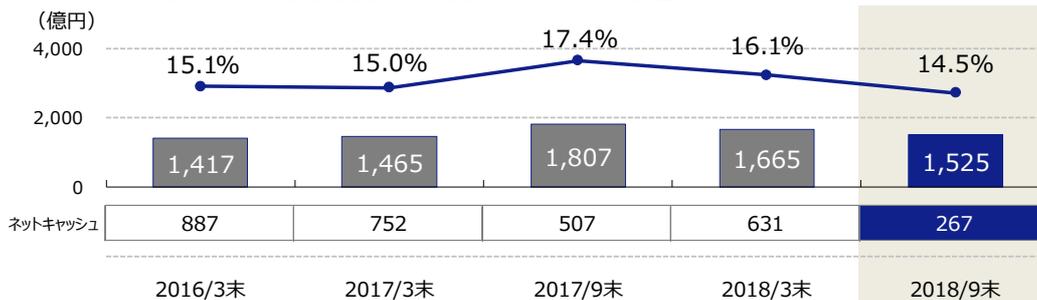


棚卸資産・回転日数

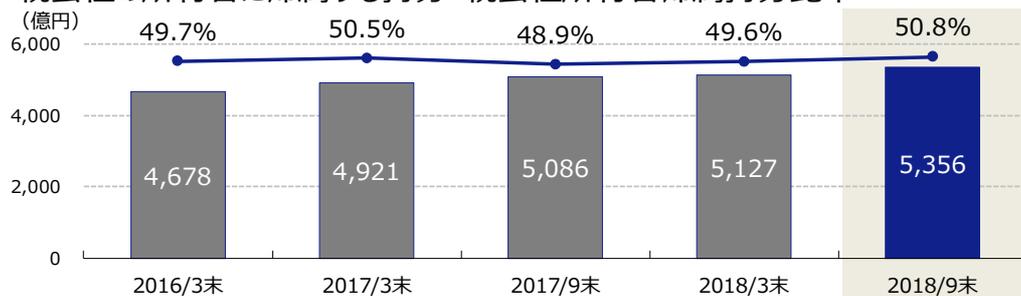


- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、現金および現金同等物が、有形固定資産などの取得や配当金の支払いなどにより減少した一方で、棚卸資産、有形固定資産などの増加により前期末に対して216億円増加し、1兆 549億円となりました。
- 棚卸資産は、インクジェットプリンター本体やプロジェクターの在庫増加などにより、前期末に対して331億円増加し、2,563億円となりました。

有利子負債・有利子負債依存度、ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



- 有利子負債は、前期末に対して140億円減少の、1,525億円となり、資産合計の有利子負債依存度は14.5%となりました。
- ネットキャッシュは、267億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、前期末に対して229億円増加の5,356億円となり、親会社所有者帰属持分比率は、50.8%となりました。

2018年度 通期業績予想 | ハイライト

再掲



	2017年度		2018年度				増減額		
	(億円)	実績	%	7/27予想	%	10/30予想	%	前期比	7/27予想比
売上収益		11,021		10,500		10,900		-121	+400
								-1.1%	+3.8%
事業利益		747	6.8%	800	7.6%	800	7.3%	+52	-
								+7.0%	-
営業利益		650	5.9%	750	7.1%	770	7.1%	+119	+20
								+18.5%	+2.7%
税引前利益		626	5.7%	740	7.0%	760	7.0%	+133	+20
								+21.3%	+2.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益		418	3.8%	580	5.5%	600	5.5%	+181	+20
								+43.4%	+3.4%
EPS ^{*1} (円)		118.78		164.67		170.34			
為替レート USD		110.85		102.00		110.00			
(円) EUR		129.66		126.00		128.00			
	第3四半期以降の 為替前提(円)	USD	EUR	為替感応度 ^{*2}		USD	EUR	その他通貨合計	
		110.00	127.00	売上収益		△30	△15	△30	
				事業利益		+5	△10	△13	

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益 *2 USD/EURは1円の円高による年間影響額（億円）、その他通貨は1%の円高による年間影響額（億円）

23

➤ 2018年度通期の業績予想は、先ほどご説明した通りです。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2017年度 実績	2018年度 前回予想	2018年度 今回予想	前期比	前回予想比
売上収益	7,366	7,000	7,240	-126	+240
プリンター	5,231	5,000	5,110	-121	+110
構成比 IJP	83%	84%	84%		
SIDM	8%	7%	8%		
その他	9%	9%	8%		
プロフェッショナルプリンティング	1,978	1,840	1,940	-38	+100
その他	173	180	190	+16	+10
事業間売上収益	-16	-20	0	+16	+20
セグメント利益	948	1,000	1,010	+61	+10
セグメント利益率	12.9%	14.3%	14.0%		

24

- プリンティングソリューションズの業績予想はご覧の通りです。
- 売上収益は、為替前提の変更によるプラス影響により、予想を引き上げました。
- プリンター事業は、大容量インクタンクモデルが、中南米の一部で若干の減少を見込みましたが、他地域では順調に拡大が継続しており、販売台数は前回予想通り、950万台の達成を見込みます。
また、インクカートリッジモデル本体は、低価格モデルのさらなる絞込みと価格維持施策の強化を見込みました。
これらの結果、インクジェットプリンター合計の販売台数予想を、前回予想の1,690万台から1,650万台に修正しました。
インクの売上収益については、上期の販売動向を踏まえ、現地通貨ベースでは予想を若干引き下げましたが、為替前提の変更によるプラス影響があり、前回から増加を見込みます。
- プロフェッショナルプリンティングは、為替影響以外には、前提に大きな変更はありません。
- セグメント利益は、USDドルの為替前提を円安に変更したことによるマイナス影響があるものの、新モデルのコストダウンなどが見込めることから、予想を若干引き上げます。

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2017年度 実績	2018年度 前回予想	2018年度 今回予想	前期比	前回予想比
売上収益	1,988	1,880	1,990	+1	+110
セグメント利益	244	220	200	-44	-20
セグメント利益率	12.3%	11.7%	10.1%		

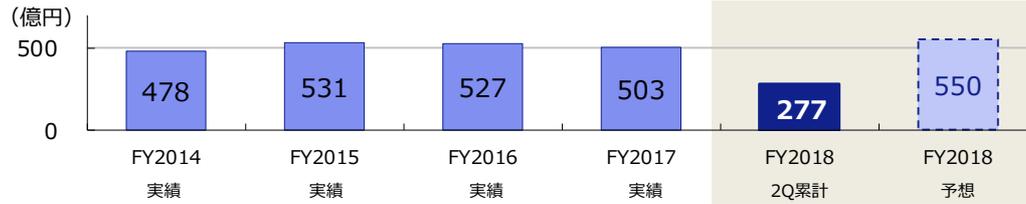
ウェアラブル・産業プロダクト	2017年度 実績	2018年度 前回予想	2018年度 今回予想	前期比	前回予想比
売上収益	1,673	1,610	1,670	-3	+60
ウェアラブル機器	503	460	480	-23	+20
ロボティクスソリューションズ	246	260	260	+13	-
マイクロデバイス他	989	940	990	+0	+50
事業間売上収益	-66	-50	-60	+6	-10
セグメント利益	71	90	100	+28	+10
セグメント利益率	4.3%	5.6%	6.0%		

25

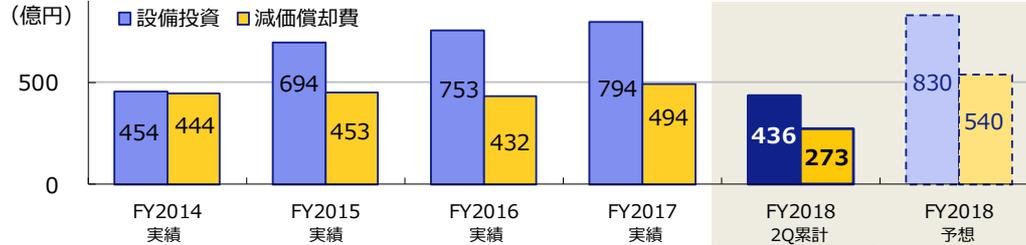
- ビジュアルコミュニケーションの売上収益は、北海道地震による生産停止に伴う販売への影響を最小限にとどめるとともに、為替前提変更によるプラス影響を見込み、予想を引き上げました。
- セグメント利益は、為替前提変更によるマイナス影響に加え、生産停止に伴う販売減少を見込んだことにより、予想を引き下げました。
- ウェアラブル・産業プロダクトの売上収益は、ロボティクスソリューションズにおいて、中国・台湾の需要減退の影響を見込んだ一方で、為替前提変更によるプラス影響を見込んだため、予想を引き上げました。
セグメント利益は、ロボティクスソリューションズの売上修正影響があるものの、本セグメントでは為替前提変更のプラス影響があるため、予想を引き上げました。

主要費用・設備投資

研究開発費



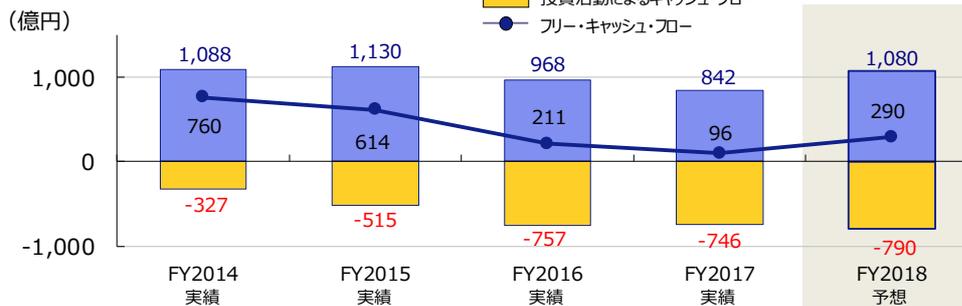
設備投資・減価償却費



	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
プリンティングソリューションズ	294	148	490	290
ビジュアルコミュニケーション	47	48	130	100
ウェアラブル・産業プロダクト	46	46	130	90
その他・全社費用	47	28	80	60

- 研究開発費、および設備投資の実績と予想はご覧のとおりです。予想は前回から変更ありません。

フリー・キャッシュ・フロー



主な経営指標

(%)	FY2014 実績	FY2015 実績	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 予想
ROS 売上収益 事業利益率	9.3	7.8	6.4	6.8	7.3
ROA 資産合計 事業利益率	10.6	8.7	6.9	7.4	7.7
ROE 親会社所有者帰属持分 当期利益率	26.3	9.5	10.1	8.3	11.1

27

- 2018年度のキャッシュ・フローの予想は、
営業活動によるキャッシュ・フローは、1,080億円を据え置きますが、
投資活動によるキャッシュ・フローは、790億円に変更し、
その結果、フリー・キャッシュ・フローは、290億円と予想します。
- なお、予想の変更は、一部所有資産の売却を前提に加えたことによるものです。
- 以上の業績予想に基づく2018年度の主な経営指標は、
ROSが 7.3%、
ROAが 7.7%、
ROEが 11.1% となります。
- 以上でご説明を終わります。

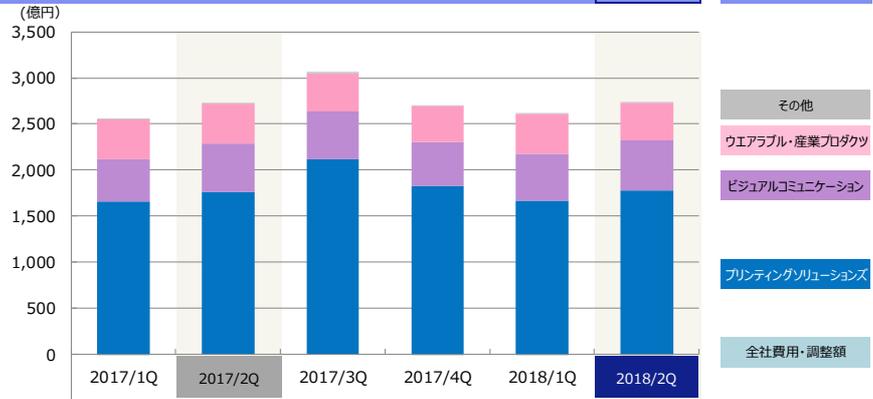
補足資料

四半期 売上収益推移 | 事業セグメント別



為替レート (円)	USD	111.08	111.00	112.92	108.39	109.06	111.46	+0.46
	EUR	122.12	130.36	132.96	133.20	130.09	129.66	-0.70

売上収益 (億円)	2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	2018/1Q	2018/2Q	前年同期比
プリンティングソリューションズ	1,659	1,761	2,116	1,829	1,666	1,780	+19
ビジュアルコミュニケーション	463	528	516	480	514	539	+11
ウェアラブル・産業プロダクツ	430	432	423	386	431	409	-23
その他	2	2	2	2	2	2	-0
全社費用・調整額	-8	0	2	-13	-9	-13	-13
連結合計	2,548	2,725	3,061	2,686	2,604	2,719	-6

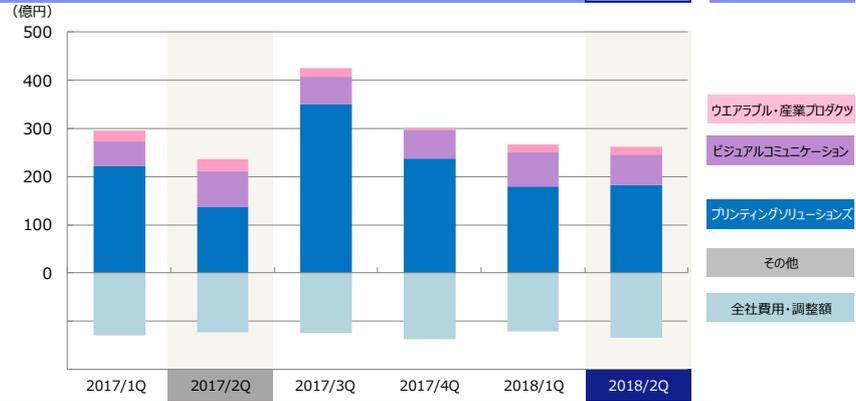


四半期 事業利益推移 | 事業セグメント別



為替レート (円)	USD	111.08	111.00	112.92	108.39	109.06	111.46	+0.46
	EUR	122.12	130.36	132.96	133.20	130.09	129.66	-0.70

事業利益 (億円)	2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	2018/1Q	2018/2Q	前年同期比
プリンティングソリューションズ	221	138	351	237	179	183	+45
ビジュアルコミュニケーション	52	74	56	60	71	63	-11
ウェアラブル・産業プロダクツ	23	24	19	3	17	16	-7
その他	-1	-1	-1	-0	-1	-0	+0
全社費用・調整額	-128	-122	-123	-137	-120	-134	-12
連結合計	167	113	303	163	146	127	+13



主要製品の販売動向

■ 実績および予想（前年同期比）

ASP,売上収益は日本円換算後

製品		FY2017 通期(実績)	FY2018 1Q(実績)	FY2018 2Q(実績)	FY2018 通期(予想)
為替レート(円)	USD	110.85	109.06	111.46	110.00
	EUR	129.66	130.09	129.66	128.00
IJP 本体	数量	+8%	+5%	-3%	+2%
	数量構成比 大容量*/ オフィス	50%弱/ 15%超	-	-	60%弱/ 約15%
	ASP	+10%台前半	+1桁%台半ば	+1桁%台後半	前期並み
	売上収益	+20%台前半	+1桁%台後半	+1桁%台半ば	+1桁%台前半
IJP インク	数量	-4%	-7%	-3%	-
	ASP	+1桁%台半ば	前期並み	-1桁%台半ば	-
	売上収益	+1桁%台前半	-1桁%台後半	-1桁%台後半	-1桁%台後半
SIDM 本体	数量	-7%	+5%	+5%	前期並み
	ASP	+1桁%台前半	前期並み	-1桁%台前半	-1桁%台後半
	売上収益	-1桁%台半ば	+1桁%台半ば	+1桁%台前半	-1桁%台後半
プロジェク ター	数量	+1%	+10%	+1%	+6%
	ASP	+1桁%台後半	前期並み	+1桁%台前半	-1桁%台半ば
	売上収益	+10%台前半	+10%台前半	+1桁%台前半	前期並み

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。 *大容量インクプリンター：大容量インクタンク、大容量インクパック、高速ラインインクジェット複合機

海外売上収益

為替レート (円)	USD	111.08	111.00	112.92	108.39	109.06	111.46	+0.46
	EUR	122.12	130.36	132.96	133.20	130.09	129.66	-0.70

売上収益 (億円)	2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	2018/1Q	2018/2Q	前年同期比
米州	783	815	819	785	755	821	+5
欧州	502	521	682	626	528	520	-1
アジア・オセアニア	727	803	784	667	792	794	-8
海外売上収益計	2,012	2,140	2,286	2,079	2,076	2,137	-3
連結合計	2,548	2,725	3,061	2,686	2,604	2,719	-6

構成比	2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	2018/1Q	2018/2Q
米州	30.7%	29.9%	26.8%	29.3%	29.0%	30.2%
欧州	19.7%	19.1%	22.3%	23.3%	20.3%	19.1%
アジア・オセアニア	28.5%	29.5%	25.6%	24.8%	30.4%	29.2%
海外売上収益計	79.0%	78.6%	74.7%	77.4%	79.7%	78.6%

従業員数

期末従業員数 (人)	2016/3末	2017/3末	2017/9末	2018/3末	2018/9末	前期末比
国内	18,699	19,175	19,616	19,436	19,694	+258
海外	48,906	53,245	61,312	56,955	61,699	+4,744
連結合計	67,605	72,420	80,928	76,391	81,393	+5,002

主な業績指標

(億円)						(億円)				
	項目	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 予想	FY2018 第1期中計目標	項目	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 予想	Epson 25 第1期累計
為替レート (円)	USD	108.38	110.85	110.00	115.00	USD	108.38	110.85	110.00	115.00
	EUR	118.79	129.66	128.00	125.00	EUR	118.79	129.66	128.00	125.00
プリンティング ソリューションズ	売上収益	6,866	7,366	7,240	8,050	営業CF	968	842	1,080	3,300程度
	セグメント利益	841	948	1,010	-	FCF	211	96	290	1,200程度
ビジュアル コミュニケーション	売上収益	1,796	1,988	1,990	2,000	設備投資	753	794	830	2,100程度
	セグメント利益	161	244	200	-	研究開発費	527	503	550	積極的に投下
ウェアラブル・ 産業プロダクト	売上収益	1,585	1,673	1,670	1,950					
	セグメント利益	78	71	100	-					
その他	売上収益	15	9	10	0					
	セグメント利益	△4	△5	△10	-					
全社・調整額	売上収益	△15	△17	△10	0					
	セグメント利益	△417	△511	△500	-					
連結合計	売上収益	10,248	11,021	10,900	12,000					
	事業利益	658	747	800	960					
	ROS	6.4%	6.8%	7.3%	8%					
	ROE	10.1%	8.3%	11.1%	継続的に 10%以上					

EPSON
EXCEED YOUR VISION